

秋冬系コマツナ新品種『あっちゃん:CM-9』 の特性と栽培の要点

雪印種苗(株)

園芸作物研究グループ

野菜研究チーム主任 本多範久

1. はじめに

「冬菜」「雪菜」などの別名を持つコマツナは、もともと蕪(カブ)の仲間の野菜で、名前の由来は江戸の小松川で栽培されていたことからと言われています。現在でも、東京近郊が一番大きな産地であり、別名雑煮菜と言われ、正月の雑煮には欠かせない野菜のひとつになっていますが、近年、その柔らかく、くせのない食味から料理の用途が広がり、高ビタミン、高ミネラルの緑黄色野菜として、全国各地で栽培されています。

弊社では既に秋冬播き用品種として「まっちゃん」を発表し、関東地域および関西地域などの秋冬播き産地において収量性や葉色、在圃性の良さを評価して頂いております。さらに、産地からは厳寒期における低温伸張性、耐寒性に優れる冬を中心とした立性で収穫・調整しやすい品種が求められています。

昨年より、秋冬播き地域を中心に試作を行ってきました「あっちゃん(CM

-9)」は、葉色、株張り、収量性に優れ、試作結果が良好なことから、今秋より販売を開始することになりましたので、その品種特性および栽培の要点についてご紹介致します。

2. 新品種『あっちゃん』の特性

1) 冬期の露地・ハウス栽培に最適!

～耐寒性、低温伸張性に優れ、
濃緑・肉厚の多収種～
耐寒性があり、低温期でも葉柄のいたみ(はく離)や葉の劣化が少なく品質良好です。低温伸張性に優れ、広葉で株張りが良く収量性に優れます。

2) 晩抽性のため春どりで安心!

従来の流通品種では、厳寒期(1～2月)播きの春どりの作型で、収穫適期前の抽苔が問題になっていました。本品種は抽苔が遅く、低温伸張性に優れることから、春どりで抽苔の心配が少ないです。

3) 収穫・調整・結束作業が容易な省力種!

①草姿

コマツナは作業性を重視する野菜ですが、本品種は極立性で収穫時の葉のからまりがなく、折れにくいいため収穫がスムーズに行えます。また、葉先が垂れにくく、捨て葉が開張性で欠き取りが容易なため調整・結束の能率が上がります。

②葉形・葉面

やや袴のある長丸葉種です。平滑葉で葉縁の巻き(カップリング)がないため手にかからず、葉の破れがありません。

③根張り

根付きの束出しの場合、ヒゲ根の多い品種では泥が落ちにくく、ヒゲ根をむしり取ってから水洗にかけますが、本種はヒゲ根が極めて少ないので泥落ちが良く作業性に優れます。

4) 荷姿がきれい!

葉は濃緑で照りがあり、低温条件でも葉面に縮みがなく外観が良好です。葉数が多く、莖葉のしまりが良いため、荷姿がきれいです。また、葉肉が厚く、日持ち性が抜群で、根切りのFGフィルム詰出荷にも適しています。



▲ 濃緑・立性の立毛、葉が揃う(露地栽培)



▲ 株元が張り過ぎず草姿きれい(ハウス栽培)



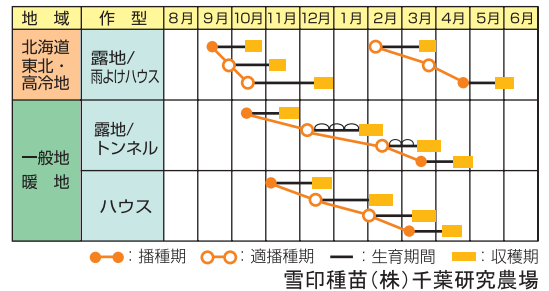
▲ 葉揃い良好(ハウス栽培)



◀ 草姿のバランス良好で荷姿きれい
(ハウス栽培)

▲ 細根少なく、調整しやすい

『あっちゃん』の栽培作型



3. 適応地域と作型

「耐寒性が強く、低温伸張性があるため
冬播きの露地・ハウス栽培に最適」

1) 北海道、東北、高冷地

最適播種期：

(露地／雨よけハウス)

9月下旬～11月上旬

2月上旬～3月下旬

2) 一般地・暖地

最適播種期：

(露地／トンネル) 12月上旬～2月中旬

(ハウス) 12月中旬～2月上旬

コマツナ品種比較試験(露地トンネル栽培)

品種名	調査日 (月/日)	草姿 (9～1)	葉形	葉色 (9～1)	葉面 (9～1)	株張り (9～1)	葉柄の 太さ (9～1)	葉長 (cm)	葉枚 (枚)	抽苔長 (cm)	一株重 (g)
平成19年10月23日播種											
あっちゃん	12/10	7.0		7.0	7.0	6.0	6.0	25.0	8.0	0.0	27.8
他社M	12/10	7.0		7.0	7.0	5.0	6.0	22.0	7.0	0.0	23.0
他社H	12/10	7.0		6.0	6.0	5.0	6.0	24.0	6.0	0.0	20.0
他社Y	12/10	6.5		7.0	7.0	6.0	6.0	23.0	7.0	0.0	25.0
平成19年12月18日播種											
あっちゃん	3/8	7.0		7.0	6.0	6.0	6.0	28.0	11.0	0.0	63.0
他社M	3/8	7.0		7.0	6.0	5.0	6.0	24.5	10.0	3.0	60.0
他社H	3/8	7.0		6.0	5.0	5.0	6.0	25.5	10.0	7.0	59.0
他社Y	3/8	6.5		7.0	5.0	6.0	6.0	25.0	10.0	3.0	57.0

評点基準 草姿:9(立性)～1(開張性) 葉形:丸葉 、袴葉 葉色:9(濃緑色)～1(淡緑色)
葉面:9(滑面)～1(縮面) 株張り:9(大)～1(小) 葉柄の太さ:9(太)～1(細)

4. 栽培上の要点

1) 秋播き栽培

①栽植密度は条間15～20cm、株間4～5cmを基本とします。極端な厚播きでは徒長や節間伸長しやすくなるので、適正な播種密度になるよう播種機を調整してください。

②肥料のやりすぎは、葉身と葉柄のバランスをくずすので注意が必要です。露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸15～20kg、カリ15kgが目安ですが、ハウス栽培ではそれぞれを8～10kg程度に減量します。

③秋播きの病害として、白さび病、べト病がみられますが、これらについては殺菌剤散布による予防が大切です。散布にあたっては、低濃度で薬液量を

増やし、葉裏まで十分農薬がかかるようにすることが効果的です。

2) 冬播き栽培

①栽植密度は条間15～20cm、株間3～5cmを基本とします。

②低温期の栽培となるため、ハウスやトンネル栽培を基本とします。厳寒期(1～2月)の露地栽培では、低温や霜により発芽が不斉一になりやすく、収量や収穫作業効率を著しく低下させてしまいます。トンネル等で保温を行い、発芽を揃えるよう心掛けてください。また、本品種は凍害には強い方ですが、良品を生産する上でも被覆資材の利用が重要になります。

③抽苔は遅い方ですが、生育をこじらせると抽苔の危険があるので、必ずハウスやトンネル、不織布を利用して生

育をスムーズに進めるよう心掛けてください。

※抽苔は低温により花芽分化が起こり、その後的高温長日で抽苔が促進されます。

5. さいごに

コマツナは周年出荷されていますが、高温期や低温期など時期によって草姿、収量が異なるため、有利なコマツナ経営をしていく上で、その時期に適した品種を選択していくことが極めて重要です。今回、ご紹介した「あっちゃん」は低温期の栽培で能力を発揮する秋冬コマツナです。本品種の特性を生かし、また、栽培のポイントを良く理解して頂いて、良品を安定出荷されることを期待しております。